

西日本豪雨被災地域での 防災教育に関する取り組みの試行

村上 帆乃

呉工業高等専門学校
yusuke-k@kanda-labo.net

神田 佑亮

2018年に発生した西日本豪雨災害では、広島県内の各地で土砂災害が発生した。土石流により死者も発生し、多くの家屋が倒壊した呉市天応地区では中学校にも土砂が流入し、学校の移転を余儀なくされた。

発表者らは2022年より天応地区内の中学校と連携し、防災に関する連携授業を現在に至るまで継続して実施している。災害の記憶の伝承と風化の防止、活力の地域内・地域外への訴求をコンセプトに進めてきた。総合学習の枠の活用により時間的な制約もある状況であるが、本発表ではこれまでの取り組みの具体内容は今後の方針について、これまでの試行錯誤の状況も含めて報告する。

キーワード：平成30年7月豪雨，リカバリーカーブ，防災教育，災害への備え